

2025.12.4.会長時間より 「ロータリー思想の原点ニューイングランド地方」

創立会長 諏訪昭浩

ロータリアンは自己教育運動で養った、人に優しくする心を誇りにして、それを職場や社会で放流する人々のことです。シェルドンがロータリーに持ち込んだ奉仕概念に共感して、一般奉仕概念をロータリー全体に広げたポール・ハリスですが、実は幼少期において既にロータリー運動の核となる思想を身につけていたと言われています。

ポール・ハリスは父親の家業が破綻したときに、祖父母が住むアメリカ北東部のニューイングランド地方に移り住みました。ニューイングランドは母国イギリスで宗教的弾圧に苦しんだ新しいキリスト教の一派であったピューリタン、すなわち清教徒たちが、弾圧から逃れるためにメイフラワー号に乗って大西洋を渡り、新大陸アメリカに渡り上陸した地方です。

母国で宗教的弾圧を受けたピューリタンは、新大陸で宗教的自由を尊重し、ピューリタンもカトリックもプロテスタントも、どれも等しく認めたのですが、ポール・ハリスはこの伝統を知らず知らずのうちに身につけ、ロータリー思想の中で、これを全ての人が平等であるという概念として開花させました。

また、この地の伝統的価値観である、名誉、献身、誠実、愛情なども、ポールは祖父母から受けた躰の中で身につけ、ここから生まれた、隣人愛、友人愛の精神は、やはりロータリー思想の中に組み込まれることになりました。

ポールは後に、「ロータリーは故郷の谷間で産声を上げた」と語っていますが、まさに、このニューイングランド地方に根付く、ピューリタンたちから受け継いだ伝統である自由の精神、平等の精神、隣人愛、友人愛こそが、ロータリー思想の原点となったのです。

ドル紙幣を見ると、そこには In God We Trust と書いてあります。これは正式なアメリカ合衆国の標語で、「我々は神を信じる」という意味です。そしてこの神とは、実はキリストを指すのです。アメリカは法律で宗教の自由を認めていますが、その素性はキリスト教国なのです。減少傾向にありますが、今でもアメリカ国民の60%はキリスト教徒。彼らはキリスト教の教義の影響を受けて育ち、それを日常生活で実践しているのです。アメリカのロータリアンが自然体で奉仕を実践できるひとつの背景がここにあります。これに対して日本は、アメリカのような宗教的背景がないために、奉仕を自然体で実践することはアメリカに比べると難しいのではないのでしょうか。そんな日本だからこそ、なぜ奉仕をするのかを理解し、自己教育によって奉仕のエネルギーを得なければならないのです。それが可能になる一つの生き方がロータリアンという生き方です。